

八幡平ふるさと会

結成について

会長 工藤 修

平成十七年九月に西根町、安代町、松尾村が合併し、「八幡平市」が誕生しました。その折に市役所を表敬訪問をしましたが、田村市長から「ふるさと会」を統合して欲しいと要望がありました。

早速準備委員会を発足させて構想検討をしてみました結果、ここに「八幡平ふるさと会」を結成することに致しました。我々の故郷であり、八幡平市出身の皆さんの親睦とふる里との交流を深める事を目的に、活動を行いたいものと考えております。

何卒、ご理解とご協力をお願い致します。

平成18年度の「西根ふるさと会」活動状況

2月19日	幹事会
4月23日	幹事会
5月2日	八幡平市訪問 (会長)
5月21日	幹事会
5月28日	岩手県人会の集い
6月1日	にしねふるさと会総会
8月5~6日	八幡平市物産フェア
8月15日	八幡平市役所訪問 (会長他)
8月15日	八幡平市第一会夏祭り
10月8日	東京安代会総会参加
11月19日	幹事会



「ふるさと会」のお陰です

駒ヶ嶺 泰秀

「ふるさと会」と言うのがあるらしいから皆で集まらないかと声を掛け合ったのが七年前、秋には一泊で温泉にでも行ってミニ同級会をしようかとまとまり、その年から江ノ島、鎌倉めぐり。翌年は箱根で海賊船に乗り大涌谷観光。三年目は鬼怒川温泉へ。ワールドスクエアを見学した夜に「新潟中越地震」に出会ったり。多摩では昭和記念公園でコスモス観賞やパターゴルフを楽しみ、奥多摩湖や御岳山や多摩川べりを散策し自然を堪能しました。岩手の同級生達も耳にして参加するようになり、男子も女子も中学時代に戻り、「楽しかった」と連発して別したが、



西根ふるさと会の一コマ

これが若さと元気に繋がるのかも知れない。今年も「ふるさと会」が近づいて来た。この秋はどんなプランが出るのが楽しみだ。

松尾鉦山に生まれて...

雲上の楽園再生

伊藤 彰

目前に雄大な岩手山、国立公園八幡平の懐に抱かれた松尾鉦山の盛衰は、近代日本の産業史であり、そこで働き暮らした人々の波乱の生活史であった。60年代に図らずも全国に散った鉦山関係者に今、負の財産をバネにして地域の再生に挑戦する未来への展開を伝えたい。柳青める北上の源流に注ぐ松尾鉦山の鉦廃水がpH2の強

酸性である為、中和処理費用に掛かる年間費用五億円は県と国の財産を半永久的に圧迫する。この為、岩手県の環境問題の筆頭に旧松尾鉦山は、負の遺産として語られているが、果たしてそうだろうか？

昨年から鉦山跡に木を植える「森びとプロジェクト」等全国的規模の運動が始まったのだが、これに連帯する形で鉦山出身者として楽園再生のビジョンを提示して子孫に繋がる未来への展望を切り開きたいと思う。

(独) 石油天然ガス、金属鉱物資源機構が坑廃水管理している中和処理施設で使われる炭酸カルシウム七千トンは、三陸沿岸で毎年産業廃棄物として排出される牡蠣ガラ六千トンを活用すれば、良いのではないか。毎秒十七トンの鉦廃水発電エネルギーに転換可能か？鉦山跡が温泉施設に囲まれる休火山地帯であるなら地熱発電事業も可能ではないか。こうした自然エネルギーを活用する発電事業が地球温暖化を加速する石化燃料発電の代替案でもあり、鉦山跡に自然エネルギー発電事業が実現すれば年間五億円に及ぶ中和処理費用を相殺出来るのではないか。この仕組みは、産・学の地域連携にすれば、経



霧水に輝く冬の八幡平(安比物語より)

しやすいのではないか。更に経済的基盤を強化する為に、玉川や草津は強酸性こそ売り物の温泉であり、地域経済の基幹をなしていることに習い、春夏秋冬は八幡平、岩手山の360度大パノラマを楽しむ湯治と絶景の掛け流し温泉。冬は本土で希少なパウダースノースキー場として豪州からのスキー愛好者を呼び寄せる国際観光事業も成立つのではないか。より一層、集客構造を補完するなら、奥州平泉を語ったと言われる「黄金の国ジバング」を支えた技術を伝える北東北の鉦山産業遺産群又は、縄文街道ストーンサークル遺産群は世界遺産登録を目指して、北東北三県周辺市町村挙げて広報宣伝すべきではないか。こうした雲上の楽園再生ビジョンは、一見荒唐無に見えつつ、着実な技術と熱い人脈を丁寧に繋げてゆくならば、山は動くと確信しつつ、ふるさと会の皆様に呼びかける次第である。

八幡平ふるさと会によせて

八幡平市

市長 田村 正彦



会報・八幡平の発行、誠におめでとうござい

ます。八幡平ふるさと会の皆様には益々ご健勝にて、ご活躍のこととお喜び申し上げます。

また、日ごろからふるさと八幡平に深い関心をお寄せいただき感謝いたしております。

さて、平成十七年九月一日に旧西根町、旧松尾村及び旧安代町が合併し、岩手県では二十七年ぶりとなる新たな市制による「八幡平市」が誕生して、一年七ヶ月が経過いたしました。

平成十八年十一月三日には、八幡平市発足一周年を記念して「八幡平市市勢功労者表彰並びに市民憲章制定・推進大会」を開催し、新市の将来像とする「農（みのり）と輝（ひかり）の大地」をイメージし、これからのまちづくりに向けた道標と感じております。

「市民憲章」とシンボルとなる「花（リンドウ）・木（アカマツ）・鳥（ヤマドリ）」を制定いたし

ました。いずれも親しみやすい市民になじみの深いものと感じております。

合併以来、旧三町村が築き上げてきた歴史や文化を尊重しながら、住民本位のまちづくりを実現するため、「八幡平市総合計画」を策定しました。また、市民との協働によるまちづくりの推進母体となる、各地区への組織づくりと併せて公共的団体の統合も順調に進められ、三地区の一体感の醸成に努めてきたところであります。

ふるさと会においても、一昨年十月及び昨年五月にそれぞれの会長さんから合併に向けた準備会を設立し、鋭意協議を進めているとの報告をいただきました際には是非一本化されますようお願いいたしました。事務局の方々が、ふるさと会合併に向けてご尽力されてきたことに敬意と感謝を申し上げます。

来る六月三日には「八幡平ふるさと会総会」が開催されるとのことと伺っており、私もぜひ出席させていたきたいと存じております。

終わりに、「八幡平ふるさと会」の益々のご発展をご祈念申し上げます。ごあいさついたします。

郷土のダイジェスト（右の主な写真をご覧ください）

* 初めての雪と氷点下を体験 北国と南国の交流を深める

友好都市・沖縄県名護市「少年の船」一行が訪問（がっこうニュース）

旧松尾村から友好関係が続く「少年の船」一行40人は2月15日、市内の小中学生と交流を深めました。1月に沖縄を訪問した市内の児童生徒と平笠小学校の児童が出迎え、温かい友情をはぐくみました。平笠小学校で行われた交歓交流会では、互いの地域を知ってもらおうと、それぞれが「お国自慢」をビデオなどで紹介し、北国と南国の文化や風習の違いを学びました。文芸発表では、沖縄の盆踊りエイサーや、カチャーシーと呼ばれる手踊りを披露。平笠小の児童が田植え踊りで訪問を歓迎しました。市の郷土料理を味わってもらおうと、松尾地区公民館へ移動して昼食会を開催。地産地消をテーマに、松っちゃん市場販売組合が、雑穀おにぎりやホロホロ鳥のひつつみなどを名護市の子どもたちに振る舞いました。午後からは八幡平リゾート・パノラマスキー場でスキー体験です。北国と南国の子どもがペアを組んで練習し、ゲレンデに友情のシュプールを描きました。

（平成19年3月1日発行 広報八幡平より）

* 銀世界に笑顔が輝いた八幡平ゆきまつり（松尾）

雪と触れ合いながら自然豊かな八幡平エリアを楽しんでもらおうと、八幡平ゆきまつりは2月17、18日の両日、八幡平温泉郷と岩手山焼走り国際交流村で行われました。ゆきまつりは今年で4回目。昨年4月に発足した八幡平市観光協会が主催し、松尾、西根両地区の冬のイベントを初めて同日に開催しました。

イベントは「雪と親しむ」がテーマです。主会場の温泉郷には、全長150メートルある日本一の雪上滑り台が登場。雪像コンテストや雪上運動会も行われ、子どもたちは元気いっぱい雪とたわむれました。夜には、イルミネーションが生み出す幻想的な空間で花火大会を開催。夜空を彩る光の共演に観客は寒さを忘れて酔いしていました。

（平成19年3月1日発行 広報八幡平より）



名護市一行の盆踊り「エイサー」



特産品の素材で滞在型観光をPR



銀世界に輝く八幡平ゆきまつり



寺田小の生徒の願いの風船を・・・

平成十八年度 東京安代会総会 「ふるさと安代のつどい」開催

平成十八年十月八日に東京安代会の総会が、浅草ビューホテルで開催されました。当日は、晴天に恵まれ約百二十名の参加者がつどい、盛大に行われました。

東京安代会としては、最後の総会となりましたが、恒例の抽選会、懐かしい歌を皆で合唱したり、楽しいひと時をすごしました。

八幡平市田村市長他の方々のご参列をいただき、想い出の物産展を買収込む等の微笑ましい姿が見られました。また、特別出演の「田山先祇い」には、地元出身の方々も熱烈声援に盛り上がり、オヒネリも多く飛び熱演者の方々もニンマリのご様子でした。

田山先祇いの熱演を楽しむ



幼なじみの「ふるさと」等の

歌を合唱



故郷を想う

前東京安代会会長

小野沢 栄治

一昨年、我々の故郷三町村が合併し、八幡平市が誕生しました。

ふるさと会も合併し、初めての「八幡平ふるさと会」のつどいの開催となりました。昭和三十七〜八年頃は労働力確保の為、若い人材を地方に求め、東京オリンピックの為に近づいた状況でした。

ふるさと会発足の趣旨は、新規就職者が慣れない職場や対人関係において、相談する人もなく一人で悩み苦しんで離職、転職していく人の相談の手助けになればと発足した親睦団体と聞き及ぶ。

今の若者達に当てはまるかどうかは分らないが、同じ故郷出身者が助け合い、相談により皆も頑張っているのだから私、俺も頑張ろうという気になればと思う。

私も東京で四十数年生活して、友達も東京の方がはるかに多く、いまさら引越など思いもよらないが、思い出を語る時はやはり子供の頃のことであり、盆踊り、お不動さんのお祭り、汽車賃がもつたなくて、一日がかりで歩いて祭り見物。

ふるさと会のイベントで披露される郷土芸能は一瞬に子供の頃にタイムスリップさせてくれます。今回八幡平ふるさと会がスタートを切りますが、今後何年経ていくかは皆さんの気持ち次第。この会は、あくまでも親睦団体であり、和気あいあいに何でも話し合える会でありたいと思います。

新しいスタートに心よりお祝い申し上げます。



安比高原を彩る高山植物

「ハクサンチドリ」
(安比物語より)

西根のルーツを尋ねて

工藤 修

平成の大合併で西根の地名がなくなりしました。昭和三十一年の大更・平館・田頭・寺田が合併し、西根村が誕生。(昭和三十六年西根町に改名)以前から西根の名前の由来を知りたいと思っていましたが、宮沢賢治の「注文の多い料理店」の中の「山男の四月」という短編の文章に「山男は金色の眼を皿のようにし背中をかがめて、にしね山の檜の林の中を兎を狙って歩いていました」とあり、注釈として小岩井牧場の西に西根と言う地名。今まで五十年間言われてきた西根の由来かと思っておりましたが、西根の地名はなくなりましたが、西根の仲間は何時までも心の繋がりを持たせたいと願っています。

八幡平ふるさと会ゴルフの会 参加自由のゴルフ会員募集中

① 八幡平ふるさと会ゴルフの会

期日・八月十五日(木)

場所・岩手県・安比高原G.C

② 岩手県人会ゴルフ大会

期日・十月九日(火)

場所・千葉県「紫CC」あやめコース

参加申込みの方は左記へ

「八幡平ふるさとゴルフの会」

責任者 小野沢 栄治

TEL・FAX 03-38870-7760

携帯電話 090-1540-5856